

県産材利用推進に向けた行動計画（令和 2～6 年度）

令和 6 年度実績について

令和 7 年 11 月

県産材利用推進に向けた行動計画(令和2~6年度)

令和6年度実績(概要)

指標	評価の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満

項目	区分	【P(Plan)】行動計画目標	【D(Do)】R6実績・評価	【C(Check)】現状分析	【A(Action)】今後の取組
木造化・木質化の推進 公共建築施設等の推進	県有施設	木造化: 100%(基準内) (R5:100%)	100%(4棟／4棟) (R5:100%)	A	<ul style="list-style-type: none"> 全ての施設において、木造化(基準内施設)及び木質化が図られた。
	補助施設	内装木質化: 100% (R5:100%)	100%(7棟／7棟) (R5:100%)	A	<ul style="list-style-type: none"> 全ての補助施設において、木造化(基準内施設)が図られている。
	補助施設	木造化: ヒアリング時に要請	100%(5棟／5棟) (R5:100%)	A	<ul style="list-style-type: none"> 内装の木質化は、事業実施主体が建築コストを勘案し見送られたものがあった。
		内装木質化: ヒアリング時に要請	50%(3棟／6棟) (R5:100%)	D	<ul style="list-style-type: none"> 全ての建築物について計画時点で木造化・木質化の検討を要請 非住宅建築の相談窓口「ぶらっとホームMoku^(※)」の紹介による建築設計段階からのサポート ※高知大丸と南国市のモデルハウス内に設置
積極的な木工事への推進 公共土木工事への推進	県発注工事	木材利用量: 工事費1億円当り12m ³	11.3m ³ ／億円 (R5:10.2m ³ ／億円)	B	<ul style="list-style-type: none"> 各現場での積極的な取組により木材利用量が増加し、木製型枠および工事用仮設資材の目標を達成した。
	市町村発注工事	木製型枠使用率: 100% (R5:100%)	100% (R5:100%)	A	<ul style="list-style-type: none"> 木材利用量は、計画期間をとおして増加してきている。引き続き積極的な木材利用の取組が必要。
	県有施設	木製資材の使用率: 100% (R5:100%)	100% (R5:100%)	A	<ul style="list-style-type: none"> 工事資材や仮設資材としての木材利用の推進(丸太柵工、木製バリケード、木製型枠等) <ul style="list-style-type: none"> 事務局より木材利用事例を紹介 林野庁等が実施している公共土木工事への木材利用の検討情報など活用可能な工法の情報収集及び提供
	市町村発注工事	木材利用量(年間): 484m ³	133m ³ (R5:318m ³)	D	<ul style="list-style-type: none"> 木製型枠の使用率は増加したが、調査対象工事の精査等によって木材利用量は減少した。
	市町村発注工事	木製型枠使用率: 100% (R5:100%)	43% (R5:37%)	D	<ul style="list-style-type: none"> 工事用仮設資材の活用については、木製工事看板などに継続して活用されている。
	市町村発注工事	木製資材の使用率: 100% (R5:100%)	81% (R5:82%)	C	<ul style="list-style-type: none"> 市町村によってバラツキが大きく、木材利用が低位な市町村への働きかけが必要。
積極的な木製品の導入	県有施設	木製事務用備品類導入: 100%	59%(202台／340台) (R5:45% 36台/80台) うち事務机:61% (113/184台) (R5:48% 23/48台)	D	<ul style="list-style-type: none"> 木製事務用品の導入率は、前年度から14パーセント増加した。 導入台数は、スマートオフィス化や警察署の建て替えなどにより前年度より大幅に増加した。
					<ul style="list-style-type: none"> 県内の事業者が生産可能な木製品の情報提供 早期発注に努め十分な納期を確保 事務用備品類導入状況調査を実施し、計画段階からの支援及び進捗確認を実施

公共建築施設等の木造化・木質化の推進（県有施設）

総括

- 全ての施設において、木造化（基準内施設）及び木質化が図られた。

行動計画目標	(R 2 実績)	(R 5 実績)	R 6 実績
○県有施設の木造化 100%	(100%)	(100%)	<u>100%</u> (4棟／4棟)
○県有施設の内装木質化 100%	(100%)	(100%)	<u>100%</u> (7棟／7棟)

【木造化された施設】

- ・ 牧野植物園栽培技術棟 (高知市) 1棟
- ・ 土佐西南大規模公園施設(宿泊棟・トイレ) (四万十市) 2棟
- ・ 清水高等学校施設 (体育館・多目的教室棟) (土佐清水市) 1棟

【木質化された施設】

- ・ 清水高等学校 (本館) (土佐清水市) 1棟
- ・ 宿毛警察署 (宿毛市) 1棟
- 他 5棟

牧野植物園栽培技術棟（木造2階建て・高知市）



宿毛警察署（鉄筋4階建て・宿毛市）



今後の取組

- 各部局は構想及び設計段階で全建築物の内容をチェックし、木造化（混構造を含む）・木質化を検討
- 施設で木造化・木質化ができないとした場合は、真にやむ得ないものか内容を精査

公共建築施設等の木造化・木質化の推進（補助施設）

総括

- 全ての補助施設において、木造化（基準内施設）が図られている。
- 内装の木質化は、事業実施主体が建築コストを勘案し、見送られたものがあった。

行動計画目標	(R 2 実績)	(R 5 実績)	R 6 実績
○補助施設の木造化 「ヒアリング時に要請」	(79%)	(100%)	<u>100%</u> (5棟／5棟)
○補助施設の内装木質化 「ヒアリング時に要請」	(79%)	(100%)	<u>50%</u> (3棟／6棟)

【木造化された施設の例】

- ・ グループホームあさかぜ（福祉施設）
- ・ 共同生活援助 Re. らいふ（福祉施設）

高知市 1棟
芸西村 1棟
他3棟

共同生活援助 Re. らいふ（木造2階建て・芸西村）



【木質化された施設の例】

- ・ 上記木造施設
- ・ 黒潮町教育振興交流支援施設

2棟
1棟

今後の取組

- 全ての建築物について計画時点で木造化・木質化の検討を要請
- 非住宅建築の相談窓口「ぷらっとホームMo k u*」の紹介による建築設計段階からのサポート
※高知大丸5階と南国市十市のモデルハウス内に設置

公共土木工事への積極的な木材利用の推進（県発注工事）

総括

- 各現場での積極的な取組により木材利用量が増加し、木製型枠および工事用仮設資材の目標を達成した。
- 木材利用量は、計画期間をとおして増加してきている。引き続き積極的な木材利用の取組が必要。

行動計画目標	(R 2 実績)	(R 5 実績)	R 6 実績
○木材利用量（工事費1億円当たり） 12m ³	(9.5m ³)	(10.2m ³)	<u>11.3m³</u>
○木製型枠使用率 100%	(100%)	(100%)	<u>100%</u>
○工事用仮設資材への木製品の使用率 100%	(100%)	(100%)	<u>100%</u>

【主な工種】

- 農業振興部 木柵工、木製型枠、工事用仮設資材等
- 林業振興・環境部 木柵工、残置型枠、木製型枠など
- 水産振興部 木製型枠、工事用仮設資材等
- 土木部 木製防護柵、木柵工（ポット苗植栽）



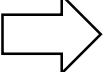
今後の取組

- 工事資材や仮設資材としての木材利用の推進（丸太柵工、木製バリケード、木製型枠等）
 - ・ 事務局より木材利用事例を紹介
 - ・ 林野庁等が実施している公共土木工事への木材利用の検討情報など活用可能な工法の情報収集及び提供

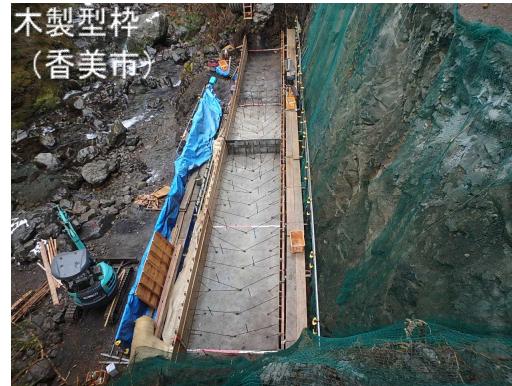
公共土木工事への積極的な木材利用の推進（市町村工事）

総括

- 木製型枠の使用率は増加したが、調査対象工事の精査等によって木材利用量は減少した。
- 工事用仮設資材の活用については、木製工事看板などに継続して活用されている。
- 市町村によってバラツキが大きく、木材利用が低位な市町村への働きかけが必要。

行動計画目標	(R 2 実績)	(R 5 実績)	R 6 実績
○木材利用量	484m ³	(329m ³)	(318m ³) <u>133m³</u>
○木製型枠使用率	100% 	(30%)	(37%) <u>43%</u>
○工事用仮設資材への木製品の使用率 100%		(71%)	(82%) <u>81%</u>

【利用事例】



今後の取組

- 工事資材や仮設資材としての木材利用の推進（丸太柵工、木製バリケード、木製型枠等）
 - ・ 県産材利用地域推進会議において木材利用事例の情報を提供し、市町村の木材使用率の向上を要請

木製品の積極的な導入

総括

- 木製事務用品の導入率は、前年度から14パーセント増加した。
- 導入台数は、スマートオフィス化や警察署の建て替えなどにより前年度より大幅に増加した。

行動計画目標	R 2 実績	R 5 実績	R 6 実績
○木製事務備品類 導入100% (事務机)	9 %	45% (36/80台)	59% (202/340台)
	7 %	48% (23/48台)	61% (113/184台)



事務机（議会事務局）



会議机（清水高校）



書棚（幡多林業事務所）



応接セット（宿毛警察署）

木製品を導入できなかった主な理由

- 破損や配置替えへの対応など急を要したため、木製品の検討や納期までの十分な期間を確保できなかった
- 木製品を導入する予算が不足した
- スペースの都合や必要な機能を満たせる木製品がなかった

今後の取組

- 県内の事業者が生産可能な木製品の情報提供
- 早期発注に努め十分な納期を確保
- 事務用備品類導入状況調査を実施し計画段階からの支援及び進捗確認を実施

施設の整備に併せた緑化木植栽の推進

（参考）

その他（緑化に関する状況）	R 5 実績	R 6 実績
○県有施設	2 件／9 件（22%）	3 件／8 件（38%）
○補助施設	0 件／9 件（0 %）	1 件／9 件（11%）

【緑化事例】

木材利用（木造建築の整備）と一体となった緑化木の植栽



清水高校・校舎本館（土佐清水市）
(ヤブツバキ、キリシマツツジ、生垣マサキ)



清水高校・体育館・多目的教室棟（土佐清水市）
(キリシマツツジ)